

JAFIC が調査している全国主要 108 港における 2021 年 10～12 月の調査対象全魚種の累計水揚量は 48 万 4 千トンで、前年同期（54 万 6 千トン）の 89%であった（表 1）。1～12 月の累計水揚量は 194 万 5 千トンで、前年同期（199 万 3 千トン）の 98%であった。10～12 月の平均価格は 244 円/kg で、前年同期（226 円/kg）の 108%であった。月別にみると、10～12 月を通じて前年同月を上回る価格で推移した。1～12 月の平均価格は 197 円/kg で、前年同期（190 円/kg）の 104%であった。

表 1. 全国主要港の 1～12 月の水揚量（トン）と平均価格（円/kg）

月	2021年		2020年		前年対比	
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格
1	121,622.3	185	114,479.7	221	106%	84%
2	146,769.9	162	156,869.2	177	94%	92%
3	181,130.2	147	177,142.4	143	102%	103%
4	137,989.5	169	156,667.2	148	88%	114%
5	174,821.8	150	178,121.9	164	98%	91%
6	195,342.2	166	164,113.4	178	119%	93%
7	193,673.9	161	180,819.0	155	107%	104%
8	95,088.3	238	123,460.6	195	77%	122%
9	214,918.5	262	194,975.4	223	110%	117%
10	217,245.1	226	239,414.8	212	91%	107%
11	124,942.9	279	143,295.4	257	87%	109%
12	141,446.7	242	163,489.6	219	87%	111%
合計	1,944,991.2	197	1,992,848.6	190	98%	104%
10～12月	483,634.6	244	546,199.7	226	89%	108%

(以降出典：JAFIC おさかなひろば)

水揚げがなかったギンザケ（養殖）を除く主要 47 魚種の 10～12 月の魚種別の累計水揚量と平均価格を新型コロナ

ナウイルス流行前の2019年同期と比較した（表2、図1）。なお、水揚量・価格ともに「前年同期並み」とあるのは増減率0～5%の場合を示す。

水揚量は、スケトウダラや冷スルメイカなど 16 魚種が 2019 年同期を上回り、キンメダイなど 4 魚種が 2019 年同期並み、マイワシやサンマなど 27 魚種が 2019 年同期を下回った。

平均価格は、さば類や生メバチなど 24 魚種が 2019 年同期を上回り、ビンナガなど 7 魚種が 2019 年同期並み、スケトウダラやマアジなど 16 魚種が 2019 年同期を下回った。このうち水揚量が 2019 年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種は、カタクチイワシなど 5 魚種で、うち 1,000 円/kg 以上の高価格魚はなかった。

表 2. 全国主要港の 2021 年 10～12 月の魚種別水揚量（トン）と平均価格（円/kg）および 2019 年同期との比較（新型コロナウイルス流行前の 2019 年 1～12 月の平均価格の昇順に並べ、1,000 円/kg 以上の魚種を赤字で示した。）

	10～12月						1～12月
	2021年		2019年		2019年比		2019年
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	価格
マイワシ	108,345.5	42	136,252.6	40	80%	103%	41
ニシン	53.9	197	2,832.0	41	2%	484%	52
カタクチワシ	2,417.6	42	2,719.4	76	89%	56%	58
スケトウダラ	25,093.9	53	13,944.5	65	180%	82%	58
ウルメイワシ	11,817.7	60	9,568.6	88	124%	68%	75
ホッケ	5,997.9	40	5,062.8	48	118%	83%	81
さば類	111,597.2	133	129,830.2	109	86%	122%	105
ほたてがい殻付	28,429.9	175	21,865.3	153	130%	114%	158
冷カツオ	29,779.8	213	39,814.6	169	75%	126%	171
マダラ	13,501.2	214	8,364.5	286	161%	75%	226
マアジ	14,147.8	221	11,484.3	265	123%	83%	229
ブリ	11,871.7	231	18,180.5	247	65%	94%	243
生カツオ	4,733.0	388	3,750.0	460	126%	84%	308
冷キハダ	15,969.3	347	17,726.9	250	90%	139%	311
かれい類	2,448.4	342	3,735.0	314	66%	109%	314
サンマ	12,304.7	638	35,992.7	283	34%	225%	317
ヒラマサ	273.6	532	403.1	474	68%	112%	472
ピンナガ	2,309.2	537	2,224.0	522	104%	103%	478
さわら類	500.2	624	1,305.3	527	38%	119%	530
マカジキ	92.4	759	223.6	626	41%	121%	562
たこ類	1,651.4	966	2,223.5	595	74%	162%	575
生スルメイカ	5,495.0	613	10,081.8	768	55%	80%	645
サザエ	91.4	794	125.3	687	73%	115%	671
マダイ(天然)	647.9	593	836.5	721	77%	82%	722
ヤリイカ	911.8	596	1,344.5	652	68%	91%	737
生キハダ	1,080.8	1,236	2,089.5	763	52%	162%	746
あなご類	268.9	790	349.9	654	77%	121%	759
メジマクロ(ヨコワ)	180.6	748	182.0	791	99%	95%	761
ハマチ(養殖)	39.0	1,097	97.6	689	40%	159%	781
冷メバチ	3,754.1	1,071	5,929.0	780	63%	137%	812
冷スルメイカ	2,783.0	725	1,209.3	1,129	230%	64%	883
マダイ(養殖)	106.6	712	87.0	833	123%	85%	910
ヒラメ(天然)	406.6	965	355.6	1,084	114%	89%	979
アカムツ(ノドグロ)	62.6	1,900	122.0	1,131	51%	168%	1,069
メカジキ	660.4	1,216	865.9	1,102	76%	110%	1,094
生メバチ	1,854.0	1,535	3,401.2	1,199	55%	128%	1,131
キンメダイ	383.7	1,721	401.6	1,749	96%	98%	1,658
クロマダラ	455.6	2,747	234.9	2,634	194%	104%	1,680
冷ミナミマダラ	1,656.1	2,073	823.0	1,774	201%	117%	1,738
ヒラメ(養殖)	4.0	2,101	4.0	2,026	100%	104%	1,934
あまだい類	51.2	2,668	44.6	2,546	115%	105%	2,123
キンキ(キチジ)	100.4	3,871	117.8	3,630	85%	107%	2,798
イセエビ	35.7	5,000	33.2	4,682	107%	107%	4,344
クルマエビ	5.2	5,597	15.4	4,299	34%	130%	4,751
トラフグ	47.1	4,915	22.6	6,475	208%	76%	5,559
あわび類	41.8	1,780	11.5	8,270	364%	22%	7,690
うに類(剥き身)	4.4	24,628	15.1	14,326	29%	172%	13,312

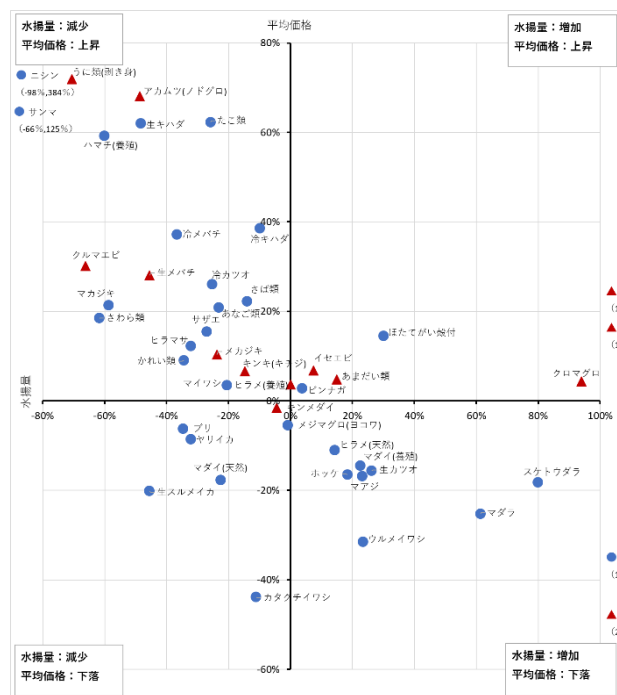


図 1. 主要 47 魚種の水揚量と平均価格の比較（2021 年 10～12 月／2019 年 10～12 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した%は、2019 年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にある魚種については、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

同様に 2020 年 10～12 月と 2019 年 10～12 月を比較した(図 2)。平均価格は、さば類やサンマなど 13 魚種が 2019 年同期を上回り、冷メバチなど 9 魚種が 2019 年同期並み、ウルメイワシやメカジキなど 25 魚種が 2019 年同期を下回った。このうち水揚量が 2019 年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種は、生キハダなど 6 魚種で、うち 1,000 円/kg 以上の高価格魚はヒラメ（養殖）とうに類（剥き身）であった。

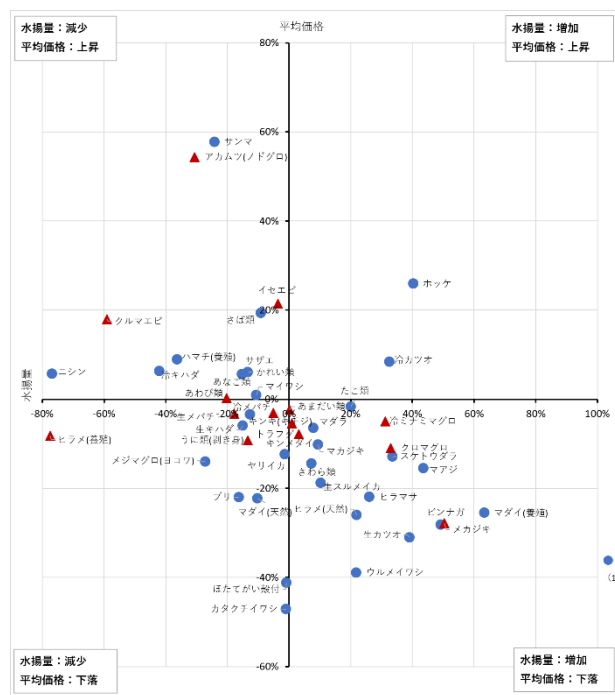


図 2. 主要 47 魚種の水揚量と平均価格の比較（2020 年 10～12 月／2019 年 10～12 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した%は、2019 年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にある魚種については、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

さらに、2021 年 10～12 月と 2020 年 10～12 月を比較した（図 3）。平均価格は、ニシンや生メバチなど 34 魚種が 2020 年同期を上回り、マイワシなど 7 魚種が 2020 年同期並み、マダラやトラフグなど 6 魚種が 2020 年同期を下回った。このうち水揚量が 2020 年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種はホッケのみであった。

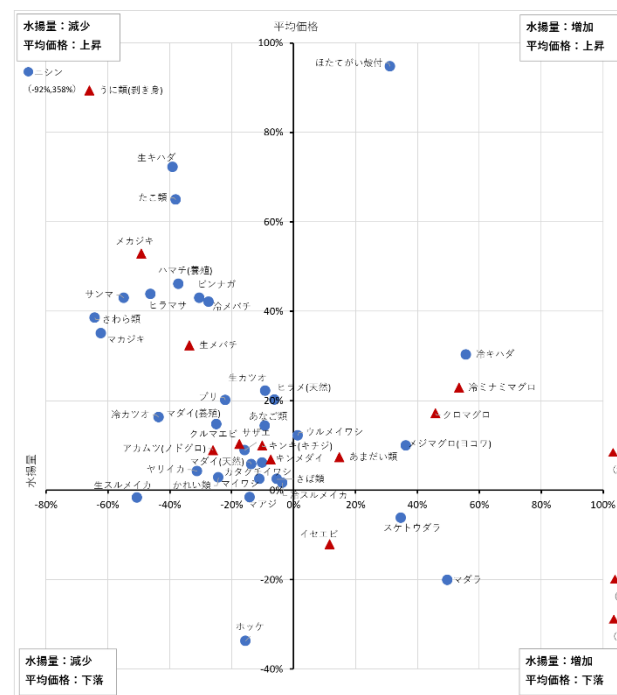


図 3. 主要 47 魚種の水揚量と平均価格の比較（2021 年 10～12 月／2020 年 10～12 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した%は、2019 年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にある魚種については、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

2019 年 10～12 月を基準とした比較では、2021 年 10～12 月の方が、2020 年 10～12 月に比べて価格を下げた魚種数は少なく、水揚量が減少したにもかかわらず価格が下落した魚種数も少なかった。また、2021 年 10～12 月と 2020 年 10～12 月を比較すると、価格が上昇した魚種数が多かった。2021 年 10～12 月は 2020 年同期と比較すると、2019 年との価格差が縮小し、コロナ禍の影響が緩和されつつあることが示唆される。

2 産地市場における代表魚種の動向

産地市場において取扱数量の多い魚種および高価格魚の代表として2魚種について動向を検討した。

1) マイワシ

水揚量は10～12月を通じて前年同月を下回り、累計水揚量は10万8千トンで前年同期の89%であった。価格は10月が40円/kg（前年比103%）、11月が52円/kg（前年比102%）、12月が54円/kg（前年比108%）であった（図4）。また、貿易統計（財務省）によると、冷凍マイワシの10～12月の輸出量は1万2千トンで前年同期の128%、金額は12億4千万円で前年同期の132%で、数量・金額ともに前年同期を上回り好調であった。

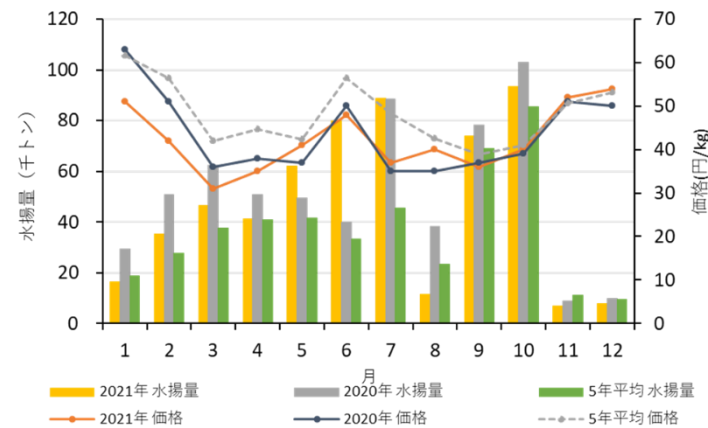


図4. マイワシの水揚量と価格の推移

2) 生クロマグロ

水揚量は、10月は前年同月の126%、11月は127%、12月は224%と大きく上回り、累計水揚量は456トンで前年同期の146%と好調であった。価格は、10月が2,095円/kg（前年比107%）、11月が3,076円/kg（前年比130%）、12月は3,615円/kg（前年比106%）で、10～12月を通じて前年を上回った（図5）。

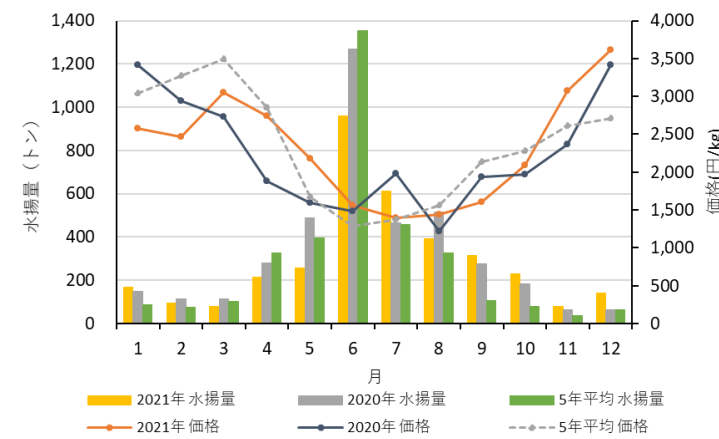


図5. 生クロマグロの水揚量と価格の推移

3 東京都中央卸売市場における動向

東京都中央卸売市場の水産物の取扱数量と平均価格を図6に示した。数量は、10月が2万トン（前年比104%）、11月が1万9千トン（前年比102%）、12月が2万1千トン（前年比98%）で、10～12月の累計数量は前年の101%であった。価格は、10月が1,257円/kg（前年比107%）、11月が1,402円/kg（前年比116%）、12月が1,693円/kg（前年比119%）で、10～12月を通じて前年および過去5年平均を上回った。

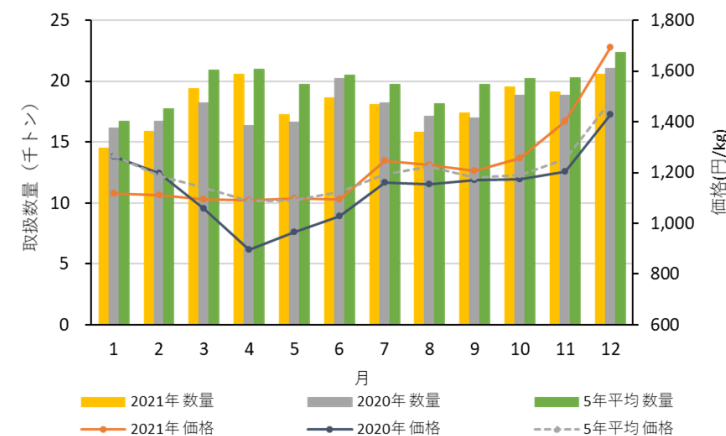


図6. 東京都中央卸売市場における水産物の取扱数量と価格の推移

次に、一般鮮魚・冷凍魚・養殖魚の代表として3魚種について、東京都中央卸売市場における動向を検討した。

1) マアジ

数量は、10月が990トン（前年比104%）、11月が840トン（前年比81%）、12月が1千トン（前年比113%）であった。価格は、10月が547円/kg（前年比91%）、11月が625円/kg（前年比126%）、12月が504円/kg（前年比96%）で、数量の増減に伴い推移した（図7）。

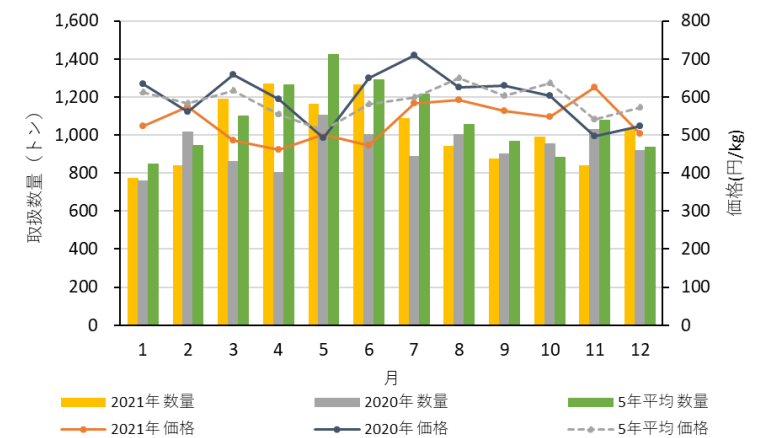


図7. マアジの入荷量と価格の推移

2) 冷メバチ

数量は、10月が980トン（前年比78%）、11月が1千トン（前年比84%）、12月が1千200トン（前年比88%）と、10～12月を通じて前年を下回った。価格は、10月が1,294円/kg（前年比141%）、11月が1,343円/kg（前年比133%）、12月が1,330円/kg（前年比132%）と、前年を上回った（図8）。価格は7月以降、過去5年平均を上回っており、この原因として、コロナ禍で外国人船員の確保が難しいことや貿易の活発化に伴う世界的なコンテナ不足などから国内搬入が減少したことが考えられる。

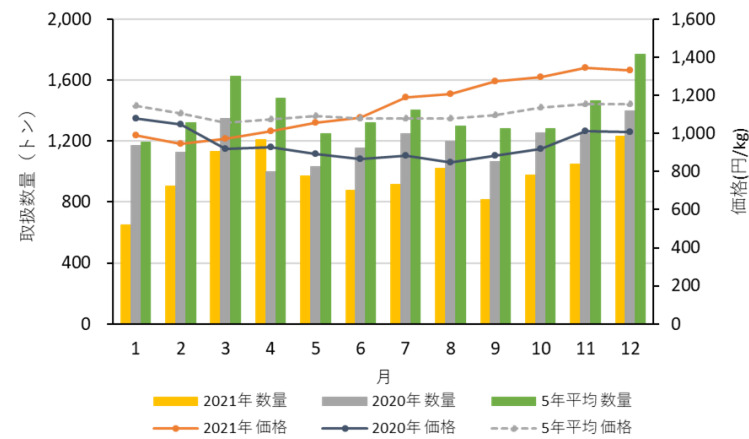


図 8. 冷メバチの入荷量と価格の推移

3) 養殖マダイ

数量は、10 月が 960 トン(前年比 138%)、11 月が 970 トン(前年比 87%)、12 月が 1 千 200 トン(前年比 85%)であった。価格は、10 月が 908 円/kg(前年比 148%)、11 月が 981 円/kg(前年比 138%)、12 月が 1,063 円/kg(前年比 152%)であった(図 9)。2020 年は、新型コロナウイルス流行による業務向けの需要減少の影響で、年間を通して前年を大きく下回る価格で推移したものの、2021 年は価格の上昇が続き、12 月には過去 5 年平均並みまで回復した。

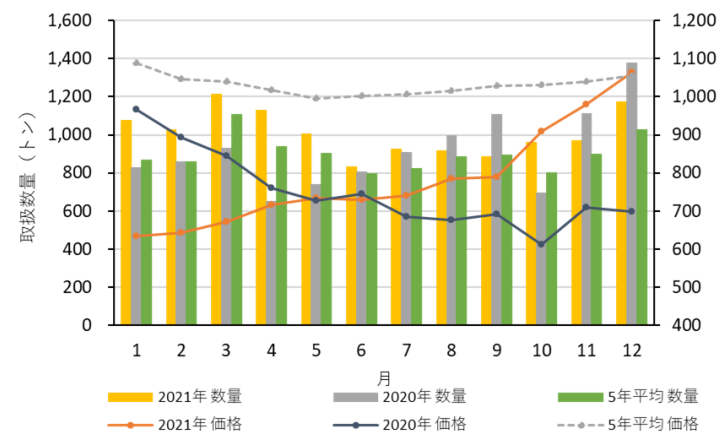


図 9. 養殖マダイの入荷量と価格の推移

4 まとめ

産地市場では、2021 年 10～12 月と 2019 年との価格差は 2020 年同期よりも縮小した。また、東京都中央卸売市場における平均価格は、10～12 月を通じて前年および過去 5 年平均を上回って推移した。10 月には、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が全面的に解除され、産地市場・消費地市場ともに価格は回復基調で推移したことから、コロナ禍の影響が緩和されつつあり、新型コロナウイルス感染拡大による魚介類の需要減少の影響は前年ほど大きくなかったことが示唆される。

本年 1 月以降、新型コロナの感染が再び急拡大しており、観光・外食需要への影響が懸念されることから、引き続き市況の動向に注意していく必要があるだろう。

(水産情報部 石山なな子)